

令和2年度 中間評価

『生徒と先生が授業を見つめるアンケート』による

授業評価

本校では各学年の各学級生徒に、1学級あたり2教科の授業について、ファイル「②授業を見つめるアンケート」を学級の時間に実施し、回収、集計し、ファイル「③授業アンケート個人票スコア」と「④ 同 グラフ」を一人一人の教科の主たる授業者に開示し、簡潔な面談を行っている。

アンケートは無記名であるが、ほとんどの生徒が1つの1つの質問項目に対して、割り当てられた教科の授業を省みて選択肢を選んでいると思われる。

また、記述欄には、尋ねた「授業時間に無駄な時間はないか」のほかに、不十分な点、感想、要望、生徒によっては授業の手法についての意見も見られ、生徒の教科の授業に対する欲求の高さ、見る目の鋭さがうかがえる。

下に示したように、生徒各自が黙々と取り組むべき時間に授業者が全体への説明を続けることを学習の妨げと捉える生徒もあり、言語活動をとおして資質・能力を育む現代のあるべき授業方法をよく察知している。ほかにも、昔ながらに生徒から喜ばれると思ってする無駄話を不要と訴えるものなどあるべき授業像を掲げるもの、励みになるものなどもあり、「教師が生徒から学ぶ」一つの場となっている。

《記述欄の例》

- ・話の脱線が多い。プリントしてある時は静かにしてほしい。
- ・楽しむだけではだめだと思う。メリハリを大切にしてほしい。
- ・無駄話が長すぎて、たまに「はやく終わらんかなー」と思う。
- ・授業の初めの グループの人が立って答えるやつが効果があると思います。
- ・書く時間をもう少し増やして欲しいです！
- ・同じ人ばかり当てるのは他の生徒のためにならないと思う。
- ・パワーポイントがとても分かりやすいです！

授業者一人一人のシート（スコア、グラフ）はここでは公開しないが、それぞれの授業者はこの結果も踏まえて、今後の授業改善に努めているところである。

なお、この方式による授業評価は、国立教育政策研究所による指定研究と併せてこの4年間行ってきたが、本年度は各教科等や行事を縮約することの一環として、アンケートに費やす時間を削減するため、質問項目を厳選して実施した。

集計結果を直感的に捉えやすいように、計算式も改良しているため、同じ授業者の過去のシートにある値やグラフと比較することはできない。後期に同じアンケートを実施するので、それを今回の結果と比較することにより、さらなる改善につなげる見通しである。